

人権を尊重する社会を目指して

山梨学院中学校三年 水川 寧々

私は毎日、電車で学校に通っています。今年の春、私が駅のホームで電車が来るのを待っていると、遠くから、あまり聞き慣れない鈴の音がしました。周りを見渡すと、黄色い点字ブロックの上を白杖を持った男性が歩いているのを見つけました。その男性は視覚障害の方だったのです。私はその日から、その男性とほぼ毎日、同じ電車に乗るようになりました。ある日、私がいつものように駅のホームで、電車を待っていた時のこと。私の斜め前にいた三人の男子高校生が、イヤホンをつけ、点字ブロックの上でスマホゲームをしているのが目に留まりました。私はその時、「あの高校生たち、点字ブロックの上から早く退いてくれないかな。そうしないと、点字ブロックを必要としている人たちが、通れなくなってしまう。」

と思いました。すると、そのあとすぐ、いつもの鈴の音がしました。視覚障害の男性が歩いてきたのです。しかし、スマホゲームをしていた三人の男子高校生たちは、イヤホンをつけていたため、鈴の音に気づかず、ゲームに集中しすぎていて、その男性がいることにもまったく気づいていませんでした。男性は、点字ブロックの上に人がいることを察したらしく、少し困った様子で周りを気にしているようでした。しかし、その男性は、ゆっくりと点字ブロックから離れ、ホームのギリギリの所を通り、三人の高校生たちを避けて、私の前を通り過ぎていきました。私はその様子を見ていて、とてもハラハラして、危なかったと思いました。でも、私は声をかけることもできず、ただ高校生とその男性を見ているだけでした。私はこの出来事をきっかけに、人権を尊重するとはどのようなことか、改めて考えるようになりました。

私が考える、人権を尊重するとは、自分と他人の権利を大切にすること、そして、全ての人が安心して、幸せに暮らせるような社会を作ることです。私はこの経験を通して、視覚障害の方々も、これまで以上に安全に、安心して街を歩いたり、公共施設を使ったりできるようにするために、私たちにできることを考えました。

それは、「ノーマライゼーション」という考え方を広めることだと思います。「ノーマライゼーション」とは、「障害がある人、ない人にかかわらず、社会の一員として互いを尊重し、支え合いながら生活をする社会が望ましい社会の姿である」という考え方のことです。最近、道路の段差を減らす、駅などの公共施設にエレベーターを設置するなど、バリアフリー化が進んでいます。そんな中でも、盲導犬を連れた人がお店に入ることを拒否されるなど、障害に対する理解不足によって、偏見や差別は今でも残っています。「ノーマライゼーション」という考え方を広め、同じ社会の一員として、障害のある人と対等に向き合うことができるようになれば、人権を尊重する社会をつくる、第一歩になると思います。

それから、公共の場では、周りを見て行動することも大切だと思います。私が利用している駅では、点字ブロックの上やスロープの所に立ち止まって、ゲームをしている学生たちをよく見かけます。また、電車の中では、優先席に座り、荷物を隣の席に置いてくつろいでいるような大人も見つかります。私が見かけたとき、たまたま障害を持っている人やそれらを必要としている人はいませんでした。でも、もし障害を持っている人がいる場面に遭遇したとき、とっさに点字ブロックの上から退いたり、席を譲ったりすることができるのでしょうか。普段から意識して、周りを見ていないと、できないことだと思います。私たち健常者にとっては何気ない点字ブロックも、視覚障害の方々にとっては命綱のようなものです。健常者の小さな行動が、障害のある方々の社会参加を妨げることもあります。一人一人が意識したり、考え方を少し変えるだけで、社会は変わるはずです。私も自分にできることは何かを考えて行動していきたいです。人権を尊重する社会を目指して。